

*****目次*****

- P1 今号の TOPICS 宮澤 富美雄
 P2 新副代表の挨拶 上池 喜代美
 新専任幹事の挨拶 大釈 金呉
 P3 仲間たちの近況報告 (1)
 1 班 吉村 正克
 2 班 玉尾 ひとみ
 P4 仲間たちの近況報告 (2)
 3 班 福島 いずみ
 4 班 玉尾 洋一
 P5 リレー随筆 飯田 義宣
 P6 私の玉手箱 前田 長治
 P7 写真コーナー 山田 勝己
 P8 樹形ウォッチング 遊上 真一
 P9 新人紹介
 P10 絵画コーナー 岩城 正大
 俳句・川柳 谷坂 修二

◇自然と文化だより◇

科のイベントである一泊旅行も関係者のご尽力と好天に恵まれ、無事終了しました。

自然と文化だよりは今回が今期第一号です。投稿箱を利用したの原稿収集は機能しませんでした。充分な原稿を提出していただき、有難うございました。

投稿箱はこのまま継続して、より多くの人に参加していただければ、「自然と文化だより」に反映する方法も考えられるのではと思います。

NA



今号の TOPICS ～新代表のご挨拶～

代表になって思うこと

代表 宮澤 富美雄

『8・18・20・20・23・25・26・31・39・63・92・96』

さて、何の数字かお分かりでしょうか？

これは、研究科12科の各科員数です。当科は、今年度96人ですから、12科最多の科員数ということになります。もちろん、研究科はそれぞれが個別の事情を持っていますから、単純に、「人数が多いのが良い科」などと考えているわけではありません。人数の多寡は、科自体の評価とはまったく関係がないのは当たり前のことです。

しかし、当科においては多くの方が継続在籍され、これだけの大所帯になったという事実は、やはり当科にそれだけの魅力があるという証じだと思えます。当科は平成16年に19人で発足したと聞いておりますから、なんと13年間で5倍に増えたということになります。

では、当科の魅力はどこにあるのか。

その魅力のひとつは、やはり『幅の広さ』でしょう。「自然」と「文化」という守備範囲の広さこそが、当科の最大の魅力なのだと思います。自然も学べる、文化も学べる、公開講演会という質の高い企画もある。実にうまい構成です。（逆に、こうした構成が諸刃の剣になっているのかもしれませんが、当科の特徴はやはり「自然と文化のバランス」だと思います）加えて、当科にはその道のプロフェッショナルと言えるような方がたくさんいて、そうした方々がさらに科の魅力を高めています。

もちろん、この科に何も課題がないというわけではありません。単なる「サロンの集まり」になっていないか、自然と文化科らしさとは何か、科の独自性はあるのか、動脈硬化をきたしている部分はないか、組織、役員の任期、などなど。しかし、これらは少しずつ解決していけばいい課題であり、それ以上に、この科がこれからも継続・発展していくために必要なことは、

- ①キツすぎず、適度なユルさがあり、居心地が良いこと
- ②硬直化せず、変化・進化できる柔軟性があること
- ③自由にモノが言える風通しの良い科であること
- ④参加して楽しい活動企画があること

これらが、何より大切なことであると思っています。

そして、どなたかがおっしゃっているように、『ちょっぴり勉強！』ができれば、もっといいですね。

突然の副代表依頼にびっくり

4班 上池 喜代美

3月初旬宮澤代表から副代表を依頼されてびっくりしました。仕事をリタイヤして今日行く所、今日の用事を求めてシニア自然大学校に入りました。自然大学校にはまって、流れで高等科、自然と文化科へと進みました。入科当時の同期は16人。気がつくとも期は7名になっていました。いつまでも新人では居られないなと気づいた時点での副代表就任依頼でした。副代表4人に女性が一人もいないのは不自然、私にできるのであればと引き受けることにしました。

副代表になって初仕事は一泊研修の行程担当。バス会社との交渉が一段落した頃、天生自然公園の自然案内人協会から、白川郷から天生湿原への道路は7月まで通行止めとの連絡が入りました。白川郷から飛騨古川周りで行くには1時間余りの回り道になる。急遽宿泊先の変更を迫られました。案内人から飛騨市河合町の「やまびこ館」を紹介され交渉開始した。当初の宿より費用も安く湿原へも近いとわかって一安心。宿には部屋にお風呂はあるが大浴場がない。心配を伝えると宿から車で数分の日帰り温泉を紹介された。天然温泉・露天風呂もあり名前も“桃源郷”。嬉しくなってバス会社へ送迎の手配。湿原への送迎も宿が格安で手配してくれることに決まった。

飛騨市に宿泊する事になったため、一日目の立ち寄り場所も飛騨古川に変更する。一度行ってみたかった街である。案内人を探し交渉。これで概ねの行程が決まり一段落した。

ばたばたの数日が過ぎ、明日から、一年越しの計画だった佐渡の旅に出発できる。念願の花に会いに行ける。



佐渡のシラネアオイとニリンソウ



雪に耐えた峰桜の古木
5月16日に満開だった

観察委員会の新専任幹事に就任して

1班 大沢 金呉

前任の宮澤さんから大丈夫！の一言で気軽に観察委員会の専任幹事を引き受けてしまった。まだ入科2年目。植物の知識も科の活動経験もまだまだ「ひよっこ」の私である。専任幹事の抱負など滅相ありませんが、自分なりの「自然」に関する考え方を一言だけ申し述べてみたいと思います。

私は絵画を鑑賞することが大好きです。特にフェルメールと印象派の絵画が大好きです。好きな絵画に出会った時のあの感動、よろこび、驚き、は植物観察から得られるそれと実によく似ています。絵画と植物と対象は相異なりますが、自然観察会でのみなさんの観察時の様子にも、新鮮な驚き、感動などプラスの体験を多くの仲間と分かち合いたいという心理が常に垣間見えます。年齢や過去の人生体験など関係なく、こどものような純粋無垢な心で自然に接し、自然と文化科のみなさんが一番魅力的で輝いて見える瞬間です。

植物の自然の営みを観察し、知ることによって生命の尊さを知り、自然に感動し、驚嘆を覚えることで自然により一層愛着が湧き、自然を守ることの大切さと自らの生きる勇気をもらえるような気がします。これが自然と文化科の自然観察会のひとつの大きな意義ではないかと思っています。

他方、自然の認識の仕方は、その価値観によって様々です。少し哲学的になるかもしれませんが、保護の対象としての自然、時には克服・開発の対象としての自然、自然科学的に捉えられた生態系としての自然。これらは我々人間からみて客観的な存在としての自然でしかありません。自然は自然同士で交流しながら存在し、我々もまた自然と交流しながら存在しています。山野や川にはその自然を巧みに利用しながら生きている動植物がいます。それぞれが自然を利用しながらも自然の一員になって生きています。我々人間も山登りや釣り、里山の農業、森林整備などを媒介として自然と交流しています。こうした自然と人間が交流する行為が、自然の生命力をより高めるきっかけになれば、それが我々にとっての自然ではないでしょうか。自然との交流は、豊かなところを育み、我々の人生をより豊かな高みに導いてくれるのではないのでしょうか。我々の自然観察会でもできればそのような高みを目指した価値あるものにしていくと思います。(あくまで理想論ですが)

「なにわの伝統野菜作り」リベンジ奮闘記

1班 吉村 正克

昨年、なにわの伝統野菜研究会に入会し、河南農園でも講習を受け、毛馬胡瓜、勝間南瓜、玉造黒門越瓜、鳥飼茄子、吹田慈姑を、それぞれ、苗をいただき、家で育て、主に、南瓜と白瓜は何とか収穫し美味しくいただいたのですが、残念ながら、その他は満足な成果を得られず、この悔しさを晴らすべく、本年も、毛馬胡瓜、鳥飼茄子、吹田慈姑の苗をいただき、目下、育成中です。



果たして、本年の結果は如何に？



加えて、チョット悪乗りし、自然工作用にと確保した勝間南瓜の種を植えてみると、何と、発芽率 100%に近く、双葉の苗が 30 鉢近くになり、これは、我が家の庭では育てられないと、うれしい悲鳴を上げているところです。

でも、種からの苗の育成で、微妙なこともわかりましたよ。種から芽が出て、双葉に成長した頃、苗をポットに植え替えたのですが、そのポットを収納するために木箱を使った場合とコンテナの場合で違いが出ました。2週間程度経過すると、木箱で収納したポットの中には、土の表面にカビらしきものが生え始めました。ところが、コンテナに収納したポットにはカビの発生はなかったのです。思うに、木箱の場合では、ポットの下穴が塞がれ通気性が悪くなり、さらに、木に吸収された水分が再蒸発し、カビの発生に好都合な環境になったのかと。慣れておられる皆さんには、当然のことだとお笑いになるかも知れませんが、やはり、素人ではやってみないとわからないことがあると、身に染みて感じた次第です。

まだまだ、大変なことが起こるかもしれないとの不安を抱えつつ、昨年の経験を生かして、どれだけ、収穫を伸ばせるか、乞うご期待。



センダンの花の香りにつつまれて…

2班 玉尾 ひとみ

ベランダに出ると、ふわーと 5 月の風に乗って運ばれる風雅な香り。センダンの花が咲いているのだ。マンションの中庭に 2 本植えられていて、センダンの木は 4 階の部屋辺りまで伸びている。我が家はその中庭に面した 6 階にあり、ちょうど真下に咲き誇る花を眺めることができる。まるで薄紫の雲の上にいるようで、幸福感に満たされる。とはいえ 今のマンションに引っ越してきて 20 年以上経つが、センダンの存在に気づいたのは去年のこと。去年までは、毎日目にする出入口に植込まれたアベリアを変わったツツジだと思っていたし、ハクモクレンの白い花が咲くと、コブシ咲く♪と口ずさんでいた。高等科に入った頃から、自分たちの近くに生きている木だけでも正確に名前を知っておこうと、マンションの敷地地図に同定した木の名前を書きこんでいる。生垣に利用されている木だけでもキンモクセイ、サザンカ、クチナシ、シャリンバイ他、数種類ある。シラカシやコナラの下にドングリを見つけて、当たり前なのに嬉しくなる。マンションは庭の掃除が行き届いていて、ドングリを目にすることはめったにない。5 月の初め、駐車場棟の横のエゴノキがいっぱいに可憐な花をつけていた。非常階段に立つと、花や実を目の位置で観ることができる。もっと上にとケヤキの花だって手に取って観察できることを今年知った。カクレミノやゲッケイジュ、アカシデ（イヌシデかも？）も植えられている。特に珍しい木はないが、意外にも種類は多い。

つい最近まで仕事に追われ、寝るだけの住家でしかなかったコンクリートの我が家が、こんなに多くの樹々に囲まれ、見ごたえのある庭に恵まれていたなんて、嬉しい発見だ。シニア効果というものか。センダンの花の香りに包まれながら、今日も元気に張り切って、洗濯ものを干した。



アシスタントを引き受けて…

3 班 福島 いずみ

私は街の子で自然にとっても憧れておりました。小さい頃は体が弱く、山に登るなどとてもないことでした。それがどうしたことが、50 才を過ぎて、植物に興味をもってから散歩が好きになり、自然に貧血も治って、だんだん山道も歩けるようになりました。

自然と文化科に入って約 1 ヶ月、先輩方に「追い越したらあかんよ」などといわれるまでもなく、一生追いつけないなという感を強くしています。年齢ではなく、観察歴の差は圧倒的です。

自身も学びながら人の役にも立てたらいいなと思って、軽い気持ちで本科のアシスタントを受けましたが、要領が悪いのか思いのほか忙しく、なかなか植物の勉強も進まない日々です。去年までやっていた展覧調査も、緒についたばかりの里山保全の作業もほとんどできなくなってしまい、つれあいとの唯一共通の趣味サイクリングにも行けていません。これで良かったのかなと迷いも多少あります。けれど、本科の講座で新たに出会った方々は、とても魅力的で人生経験も豊かで、色々と教えられる毎日です。ボランティアしているというより修行しているような気持ちで接しています。このような状況ですが、なんとか植物の勉強もやりたいと思っています。基本的に何も知りませんので、少しずつ教えてください。私にとっては毎日が発見で、とても新鮮です。

今日は 3 つも発見しました！祝杯です！

①ムシクサ…長い間何だろうと考えていた庭の雑草です。可愛い白い花が咲き、ハート形の果実がなります。



②ペラペラヨメナ…これもずっと悩んでいた庭の雑草です。葉はヨメナのようなのに、ヒメジョオンのような白い花が咲くのです。

③キイロトラカミキリ…ときどき見かけなのですが、カメムシかと思って調べていたので分かりませんでした。頭部の 2 個の黒斑が決め手です。



宮崎 神社巡り

4 班 玉尾 洋一

恒例の月一の旅行に出掛けた。今回は宮崎県をレンタカーでの観光だ。特に神社を参拝しようと企画した訳ではないが、古代の歴史が好きで自然と神社に足が向く。また神社は鬱蒼としていて、樹木・植物が多く、同定する楽しみもある。まず宮崎空港から高速を飛ばして、霧島神宮へ詣でた。鹿児島県に位置しているこの神宮の御祭神は、高千穂峰に天降り給うた祖神<ニニギノミコト>である。クチナシの一重の花が目立っていた。翌日ミヤマキリシマの群生を観ようと、霊峰高千穂峰の登山口「高千穂河原」に行った。知らなかったが、500 年前までここに、霧島神宮があったとの事だ。噴火炎上し現在の社地へご鎮座された。霧が発生していて、社殿跡の<天孫降臨神籬(ひもろぎ)斎場>が幻想的に見えた。ミヤマキリシマは時期が少し早く、満開まではいかなかったが、小さな群生を観ることが出来た。

宮崎へ戻り、次は宮崎神宮を詣でた。御祭神は<神武天皇>を主祭神とし、相殿 左<ウガヤフキアエズノミコト(父)>、右<タマヨリヒメノミコト(母)>を配祀されている。社殿は方 3 間の切妻造妻入。直線的で簡素な佇まいが感じられ、伊勢神宮の神明造が影響しているらしい。続いて日南海岸を南下した。快晴で海がきらきら輝いていた。途中の観光地に寄りながら、鶴戸神宮に到着した。駐車場から本殿まで、階段を昇り降りし、トンネルをくぐって、片道 25 分ほど掛かった。海岸の洞穴の中に社殿が造られている。他にない位置に祀られているご主祭神は<ウガヤフキアエズノミコト(神武天皇の御父君)>である。参道で見つけたジャカラダは綺麗な花を付けていた。日南市の「道の駅南郷」にジャカラダの森があり、花が一斉に開花すると聞いていて、期待して行っただけ、時期早く、全く咲いていなかった。残念！

翌日気を取り直して、飫肥城址を観光して、帰路に就いた。3 泊 4 日の旅であったが、さすが天孫降臨の地、ご祭神がすべて黎明期の祖となっていて、神話を思い出した。花の鑑賞は、ミヤマキリシマ、ジャカラダも時期尚早で、次、来るときは 6 月になってからにしよう。アジサイも咲いていて、きっと素晴らしい景観であると思う。

沖縄慶良間諸島 “シーカヤックでクジラ海峡を渡る” (阿波連ビーチから)

2班 飯田 義宣

趣味の遍歴は多々ありますが、今でも残っているのはスキーとカヌーです。それもシーカヤック。以前（60代）、カヌー仲間に誘われ、ケラマ諸島に行った時のことを思い出して記述してみました。なぜそんなことを！と思われることでしょうか。しかし、少しは冒険、命をかけるそんなことを実行したくはありませんか。

海岸に出るとそこには夢のような風景が広がっていた。目の前にサンゴ礁の砂浜、限りなく透明な海、渚に打ち寄せて来る波、沖の島々。「あれ?! こんな所に居たんだ。」渡嘉敷島に居ること自体不思議に思える一瞬だった。夜来の激しい風も波もおさまり、湾内は沖縄独特のコバルトブルーの海が……。子供たちがのんきそうに泳いでいた。湾の外はかすかに白波が見えるのが不安だった。これから渡らなくてはならない慶良間海峡。別名クジラ海峡と言って2～3月にはザトウクジラが子育ての為に。黒潮に乗ってくると聞く。この海峡を二人乗りのシーカヤックで対岸のゲルマ島まで渡らなくてはならないことになった。しかも今日中に！渡嘉敷島に来る途中、仲間の艇が目の前で、岩に打ち寄せて来る白波の横波をまともに受けて120キロもある二人艇が空中に投げだされるのを見なかったらそんなに心配をしなかったのに。ゴーヤチャンプルの朝食を食べているときにも、これから始まる波との戦いを思いやっていた。何時か山陰海岸（網代港から余部までのシーカヤック）でベテランが「沖の白波の中は地獄だ」と言っているのを思い出していた。思い余ってアシスタントに聞くと、「潮が止まる、“潮止まり”が午後2時にある。その時に出廷したい」と。一理あると思い、納得する振りをした。間際になると、興奮状態、拳動不審が小生を支配した。戦場に出て行くソルジャー！の心境。外洋での“沈”は恐怖の塊だ。「海に落ちたら、黒潮海流の中では遺体は見つからない。琵琶湖なら何日か後に溺死体が上がると……」（黒潮シンポジウムでの海上保安庁職員の講演）午後2時 興奮したまま出艇。相棒のAさんと。ナカチブリを過ぎ、いきなり予想通りの大波。仲間を待とうとするのだが、海上では静止できない。ゲルマの橋を目指して約1時間の航程だ。「行け！」海峡の真ん中近くになると、

益々波は高くなって来る。前方を見ると、まるでコブラの鎌首のごとく白い波を頭に頂き、幾重にも襲ってくる。当て舵をして怒濤に向かって行く。横波をまともに食らえば“沈”だ。フェリーグライドの要領で風に、波に向かって進み、波の頂点に乗れば細かくパドリングをして艇を安定させる。波長の短い、しかも砕けた波、波頭の崩れたのが次から次にやって来る。波の頂点に乗ってしまえばおしまいだ。波間を丸太を転がすように転げ落ちてしまう。何がきてもリカバー出来るように慎重にパドリングする。「こんな所で死ぬるか」前を見ると幾重にも続く大波、波長の底辺に来ると両側に6mもあろうかと思われる青黒い海水の壁！モーゼの波もこのことか。一瞬暗闇になり、と思うと、明るい空中に……。波の頂点、ボーンという音とともに波のなかに突っ込んで行く。スプレーカバーのおかげで艇に海水が入るのをまぬかれたが。「船に水が入れば“沈”につながる。パドリングが可能な時は助かる」という信念を今までの経験で会得している。それを思いおこし乗り切って行けたと。少しずつだが穏やかに成ってきた。海流に押し流されたのかモカラク島に向かっている。方向を修正してゲルマ島へ。フカジ島のかげに入ったのか嘘のように静かになった。急に腕が痛くなる。腕の筋肉が痙攣している。もうすこしでゲルマの橋だ。ああ、やったあ、安堵感がこみ上げてくる。陸に上がり渡嘉敷海峡を見ると白波がたっていない。あの波はなんだったのだろう。

帰路、アカ島からフェリーに乗りケラマ海峡を渡ったのだが。その時相当ゆれた。デッキに出てみるとあの時見た波がうねっていた。視線が高かったのでさほど恐怖心は感じなかったのだが。「こんな大型船が揺れるところを渡ったのか?」。改めて大自然への畏敬の念を感じた。



単独行テン泊鈴鹿山脈縦走

3班 前田 長治

5月21-23日に2泊3日で鈴鹿山脈を縦走しましたので、報告します。

5月21日に自宅を5:30に出発し、西藤原駅に10時に到着しました。水1.8ℓを含めて、総重量約14kgのザックを担ぐことになりました。大貝戸道を順調に進み、八合目に到着、この付近はフクジュソウで有名ですが、花期は終わっていました。昼食を食べ、藤原岳山頂を目指します。12:15の出発となりました。少し速度が遅くなったのを実感してきました。睡眠不足が原因か。13:20に山頂に到着しました。ここまではほぼ、コースタイム通りでありました。まだ、5時間歩きテント場の石樽峠を目指します。まずは、治田峠に向かいます。山頂を過ぎてから、さらに速度が確実に低下しているのが、実感出来ました。下りの山腹道がきつい、道幅が極端に狭く疲労が激しくなってきました。治田峠でテントを張ることにして、歩を進め15:30に治田峠に到着しました。1時間程度で行ける所を2時間かかったことになりました。水の残量は0.5ℓになっていました。夕食の水だけは何とかかなったときに、水の流れる音が聞こえました。思わず、「助かった。もう進まない。」と叫びました。峠を滋賀県側に下ったところに沢がありました。水確保に往復で30分かかりました。この水場は、インターネットにも紹介がなかったので、まさしく天の助けです。テント場は、少し斜面でしたが、強引に確保しました。夕食を17時に済ませ、18時には就寝しました。キツツキのうるささも気にせず、熟睡しました。

5月22日は4:30に起床し、5:52に出発、体調はますます感じました。本日は、順調に歩を進め、竜ヶ岳に8:45に到着しました。途中の登山道では、シロヤシオ、アカヤシオに癒され、また、シカの大群に出会いました。ハウチワカエデの葉が葉柄から多数落ちていました。竜ヶ岳は、藤原岳から、鈴鹿セブンマウンテンの2座目になります。石樽峠を目指し下ります。激下りと表現されているのが、実感出来ました。ここは、地図にも水場と書かれています。ここに10:00に到着しました。本来の計画では、初日の宿泊地でありました。すぐに水場を見つけました。すると途端に緊張が解かれ、ここにテントを張ることに決めました。言い訳は、「テント場は水場に近いくこと。」

次の水場は、最初に計画した国見峠にあります。これから9時間かかります。途中で峠がありますので、テント場は問題がありませんが、水場の確認がありませんので、4ℓの水を持てば、可能ですが、あとザック重量が2kg増えることとなります。「とても無理。」と体が訴えます。昼寝をしたりして時間をつぶし、明日の計画を再考しました。結論は、次の3座目である釈迦ヶ岳を目指すことにしました。

5月23日は、5:40に出発し、釈迦ヶ岳に9:50に到着しました。国見峠まで行くかと逡巡がありましたが、「御身大切ともう一泊するの。」で松尾尾根を下ることにしました。途中、落葉が登山道に積もっており、滑るので慎重に歩を進めました。また、どう見ても熊の爪跡がある木を数本見つけました。もちろんかなり古い傷ではありますが、一抹の不安もありながら下山し、道路に12:37にでました。これから湯の山温泉駅まで、約4.5km歩くことになりました。駅に14:45到着しました。9時間歩いたことになり、「国見峠まで行けたかも」と思いましたが、7座中3座で満足としました。



奈良公園のフジとヤエザクラ

1班 山田 勝己



鹿苑 満開のノダフジ



奈良公園 ナラノヤエザクラ



若宮神社 ノダフジ



春日神社 砂ズリノフジ



金龍神社 ナラノヤエザクラとノダフジ

根はどんな模様をしているのか？ 樹皮と同じ模様なのか？
身近な樹木の根を調べてみました

4 班 遊上 眞一



カゴノキ：根にもしっかり鹿の子模様ができています



フジ：どこからがツルで、どこからが根か？



スギ：縦に割れた樹皮が幹から根へと続きます



リョウブ：白くハゲかかっています



クロマツ：亀甲模様が根の先まで続いています



ツブラジイ：堂々たる板根で立つ

新人紹介コーナー

①：氏名 ②：所属 ③：講座生の期、組
④：住所 ⑤：他の所属 ⑥：自己紹介



① 井上 祥子
② 1 班副班長・観察委員
③ シ22期 風組
④ 箕面市
⑤

⑥ 高所恐怖症のためこの1年で克服したい。



① 吉村 正克
② 1 班・調査
③ シ22期 緑組
④ 豊中市
⑤ 自探クラブ・(なにわの伝統野菜研究会一休会中)

⑥ 幼な友達で編成している歩く会の仲間に触発され、少しでも草木の名前でも覚えようかとシニアに入ったものの、手遅れで頭に残りませんが、よろしく。



① 五家 正敏
② 2 班・社会貢献
③ シ22期 風組
④ 茨木市
⑤ 風組 AS、自然学、菌類研究会、茨木バラとカシ会

⑥ 文系人間で第二の人生は自然科学的な分野でと思っていました。「自然と文化科」での活動を通じて、これから少しでも恩返しができるばと考えています。



① 玉尾 ひとみ
② 2 班副班長・企画
③ シ22期 緑組
④ 東大阪市
⑤ ならなぎ

⑥ 得意とはいえませんが、心身の健康のために絵画教室とエアロビクスにはずっと通っています。最近は雑草といわれる野の花に興味深々です。



① 石川 隆一
② 3 班副班長・調査
③ シ22期 風組
④ 堺市
⑤ 高石ジュニア自然大学

⑥ 樹木、草木などの生き様をもっと良く知り、「センス・オブ・ワンダー」の大切さを胸に、子供たちにその感動を伝えたいと思っています。宜しくお願いします。



① 福島 いずみ
② 3 班・観察委員会
③ シ22期 緑組
④ 交野市
⑤ 緑組 AS、交野自然の杜クラブ

⑥ 植物や昆虫、野鳥に興味があります。植物の生理や生態について色々楽しく学びたいと思っています。



① 青野 正明
② 4 班副班長・調査
③ シ22期 緑組
④ 西宮市
⑤

⑥ 体を動かすことを基本に脳も鍛えたいと思っています。植物のことは勉強不足で分かりませんが、ご指導よろしくお願いします。



① 玉尾 洋一
② 4 班副班長・広報
③ シ22期 緑組
④ 東大阪市
⑤ ならなぎ

⑥ 本科、高等科と主に木本を学んできましたが(まだまだですが)、草本も知識を得たいと思っています。

いかるが・法起寺

3班 岩城 正大



俳句・川柳

4班 谷坂 修二

新緑も香りも甘く観察日

葉に隠れ花が尻尾のイヌザクラ

路に花空に若葉のハイキング

ザリガニに触りたいやら怖いやら

覗き込むオタマジャクシとガキの顔

何が出る鵜の目鷹の目観察会

自然と文化だより
皆さんのご協力により33号が発
行出来ました。有難うございま
した。(広報委員会)